

イネカメムシ被害に注意

県内の広域で確認されています

被害防止 & 地域の発生量を増やさないため
防除対策を徹底しましょう

イネカメムシの成虫

体長 約1.3cm

鳥取県の発生状況

- イネカメムシは斑点米カメムシ類の一種です。
近年、関東以西で被害が問題化しています。
- 鳥取県内でも令和6年から広域で確認されています。
⇒ 西部を中心に多発ほ場が確認されており、
東部と中部でも昨年より発生が増えています。



イネカメムシの幼虫

イネカメムシの被害



出穂期の吸汁による不稔
多発すると減収



玄米の
基部に
被害

乳熟期以降の吸汁による斑点米
等級落ちの原因

イネカメムシ防除は農薬での防除が基本です

生態の特徴

- 本種の越冬成虫は極早生品種の出穂前に越冬地から水田に飛来します。
その後、早生～晩生品種のほ場に順次移動し、穂を吸汁加害します。
- 水稻の収穫後は水稻の刈り株から出穂した穂などに寄生した後、越冬地へ移動します。
- イネカメムシは水稻の嗜好性が非常に高いのが特徴です。
⇒ イネ科雑草に寄生する個体は少ないので、草刈りでは個体数が減りません。

発生が多くなりやすいほ場

- 周囲よりも出穂期が大きくずれる（イネカメムシが集中飛来しやすい）
⇒ 例：極早生や晩生品種、地域で最も早く出穂するほ場、早生品種の中に中生品種が1ほ場だけ、等
- 出穂が早い品種から遅い品種まで様々な出穂期の品種が混在する地域
⇒ 本種にとって好適な餌条件が続くため、発生量が増加しやすい

基本防除対象の主要病害虫を含めた農薬のおすすめ散布時期

⇒ 防除の徹底で被害防止＆地域の発生量を増やさない

○イネカメムシ
多発地域

○発生が多くなり
やすいほ場

【1回目】

イネカメムシ

穂いもち・紋枯病
ウンカ・チョウ目等

出穂期ごろ

減収を防ぐ

【2回目】

イネカメムシ

斑点米カメムシ類
穂いもち

穂揃期～乳熟初期
(防除1回目の7～10日後を目安)

品質低下を防ぐ

○その他の地域

【1回目】

穂いもち・紋枯病
ウンカ・チョウ目等

穂ばらみ期

出穂期ごろ

【2回目】

イネカメムシ

斑点米カメムシ類
穂いもち

穂揃期～乳熟初期

品質低下を防ぐ

○詳しくは最寄りのJAもしくは農業改良普及所等にお問い合わせください